

むすびに就て

福 場 保 洲

「むすび(産靈)」は、あらゆるもの、生成發展の原理である。宇宙のあらゆるもの、即ち宇宙そのもの、天の下、地の上に存在するあらゆるもの——精神的なるもの又物質的なるもの、一としてこの原理によつて生成し發展しないものはない。宇宙、國土、民族、歴史、文化、財貨、その他あらゆるもの、悉くこの原理によつて生成し發展してゐるのである。

斯の如きむすびの創造の原理としての性格は、今日に於ては、既に、われわれ日本人の多くが、明に認識してゐる所のもの、否な主體となつて之を體認してゐる所のものであつて、その世界觀と國家觀との動かす可からざる根柢となつてゐる所のものである。然し、思へば、われわれの祖先は、能くも斯の如き雄渾壯大なる創造の原理を、創造せるものである。斯の如き創造の原理を創造する能力、これは偉大なる能力である。この能力を發揮した祖先を祖先とするわれわれ日本人が、その天賦に於て偉大なる創造能力を有する民族であることは、當然のことではあるが、又二千六百年の

歴史に於て實證されてゐる。特に、今日の大東亞新秩序の建設に於ては、一層明に且つ力強く實證されてゐる。然しわれ／＼は反省せねばならない。創造は、常に、努力を道づれとしてゐる。努力を道づれとしない創造はない。努力の斷絶せる時、それは創造の斷絶せる時である。綿々不斷の努力の行はれる所には、永遠の創造があり従つて永遠の生成發展があるのである。偉大なる努力、それは偉大なる創造の母とさへ云ふことが出来る。今や、われわれは、大東亞新秩序の建設と云ふ偉大なる創造をなしつゝある。而も、この新秩序は、世界の新秩序の非常に重要な部分——否なその根柢にさへなると云ふ世界的性格を有する。斯の如き大業の達成は、偉大なる努力を道づれとする創造なくして庶幾することが出来ないことは云ふまでもないが、而も、この場合に於ては、それは、特定の個人や團體のものであつてはならない。日本人・日本民族全體のものであらねばならない——むすびの本來の生命たる全日本民族の創造能力が完全に發揮される所のものであらねばならないのである。

二

かゝるむすびの原理は、わが古典に明に示されてゐる。筆者は、この備忘録にもひとしい小稿に於ては、古典の示す所のものを詳しく検討することを目的とするのでなく、むすびの原理の根本的性格を指摘することを目的とするに過ぎないから、古事記に示されてゐるものゝ一部分のみをあげ

て置きたい。

天地の初發の時、高天原に成りませる神の御名は、天之御中主神、次に高御産巢日神、次に神御産巢日神。此の三柱の神は、並獨神成りまして、御身を隠したまひき。次に、國稚く浮脂の如くして、海月なす漂へる時に、葦牙の如萌騰る物に因りて、成りませる神の御名は、宇麻志阿斯訶備比古遲神、次に天之常立神。此の二柱の神も、獨神成りまして御身を隠したまひき……次に成りませる神の御名は、國之常之神、次に豊雲野神。此の二柱の神も獨神成りまして、御身を隠したまひき。次に成りませる神の御名は……伊邪那岐神、次に妹伊邪那美神……是に天神諸の命以ちて、伊邪那岐命伊邪那美命二柱の神に、是の漂へる國を修理固成せと詔ちて、天沼茅を賜ひて言依し賜ひき。

かくして、二柱の神による「國土生成」の大業が行はれ、次に諸神の生誕と云ふ聖業が行はれた。「既に國を生竟て、更に神を生みます」と云ふ古事記の文字は、之を示すのである。而て天照大御神は、伊邪那岐命の生みたまふた最後の三柱の神の一柱の神として伊邪那岐命が「左の御目を洗ひたまひし時に成りませる神」にまします。

此の時、伊邪那岐命大歡喜して詔りたまはく、吾は御子を生みて、生の終に三ばしらの貴の御子得たりと詔りたまひて、即ち其の御頸珠の玉の緒もゆらに取りゆらかして、天照大御神に詔り

たまはく、汝が命は、高天原を治せと、事依し賜ひき。

天照大御神は、伊邪那岐命の「事依し賜」ふた所によつて「高天原を治」しめす様になつたのであるが、大御神も亦、神神を「生れます」聖業を續いて行ひたまふてゐる。斯の如き聖業はその御兒孫が續いて行ひたまふてゐる所であるが、そのことは暫く措いて、天之御中主神より天照大御神に至るまで、神神は、ひとしく、むすびの聖業を行ひたまふてゐることを拜察し得るのである。

三

天之御中主神・高御産巢日神・神御産巢日神の三神より天照大御神に至るまでの神神のむすびの聖業は、宇宙の創開、天地の開闢、國土の生成、生物の生成發育、萬物の生成發展の過程を體系的に示すものと拜察する。然らば、斯の如き生成發展の過程に於て、神神は主體として如何なる地位に在らせられるのであるか。之に對する回答として、われ／＼は平田篤胤のものが典型的なものであることを否定し得ない。之によれば、天之御中主神は、「天の最中のいと高く、寂寞にして動き徒らざる處、すなはち謂ゆる北辰」の中に、無始の始より鎮りまして、「宇宙の萬物を悉く主宰り給ふ」(古史傳)神である。之を別言すると、この神は、全一體たる宇宙の中心・根幹であらせられ、宇宙は本來全一體をなすものであり、宇宙のあらゆるものは中心・根幹たるこの神よりの分枝であると云ふ原理を示したまふてゐると云ひ得ると思ふ。即ち、この神は、宇宙の根本主體であり、あ

らゆるものに自己を分化し發展したまふ十全なる能力を内藏したまふ母體（全體）であるが、直接に、自己をあらゆるものに分化發展したまはないで、高御産巢日神と神御産巢日神との男神と女神とに分化發展したまふたのである。而て、われ／＼は云ふまでもなく、あらゆるものは悉くこの「産巢日神の御靈たまによりて生れつる」〔宣長、直毘靈〕ものであり、「高皇産靈神は男神に坐し、神皇産靈神は女神に坐し」〔靈能眞柱〕、「此の二柱の男女めをの大神の、産靈の御徳みづかの間なかより、諸の物類も事業も生成り、神たちも生坐」〔古史傳〕したのである。

さて、この二柱の神の後に「成りませる」神神に、宇麻志阿斯訶備比古遲神、天之常立神、國之常立神、豊雲野神その他の神神があらせられるが、これらの神神に就ては暫く措く。その後成りました伊邪那岐神と伊邪那美神とは、天つ神（天之御中主神・高御産巢日神・神産巢日神）の詔によりて、「是の漂へる國」〔漂へる一物〕の修理固成を行ひたまふたのである。かくして、我が國土は云ふまでもなく、外國も亦、この二柱の神の修理固成によつて生れたのである。然し、我が國土も外國もひとしく産靈の神の生みたまふ所ではあるが、我が國土は神の胎内から直接生れたもの云はゞ萬國の祖國であり、外國は神の胎内から直接生れたものでなく云はゞ末の國であり枝の國であるのである。而て、天照大御神は、伊邪那岐命の「事依し賜ふ」所によつて高天原を主宰したまひ、葦原の中つ國を静め整へて皇孫瓊瓊杵尊を君臨せしめたまふたのである。かくして、我國統治の大

主意・大精神が嚴然と確立され、他に比類なきわが國の國體の根基が定められたのである。

四

天照大御神は高天原の主宰者であらせられ、瓊瓊杵尊はわが國の統治の主體として君臨され、天皇はその御直系であらせられる。而て、むすびの聖業は、天之御中主神よりこのかた、神神によつて繼承され、天皇は神々の御直系として之を繼承あらせられてゐる。即ち、天皇はむすびの聖業の中心・根幹として、わが國のあらゆる方面の生成發展に於て神聖にして微妙而も活潑なる活動を行はせられてゐる。國の統治、國威の宣揚、國の内外に於ける邪惡なるもの、破碎翦除、世界に於ける公正なる秩序の建設、悉くむすびの聖業の現實に於ける御活動ならざるはない。而も、この御活動を、その高貴神聖なる御徳によつて、自らの裡に・豫め御計畫をたてさせられることなくして、行ひたまふてゐると拜察する。

われ／＼國民は、神々のむすびの聖業によつて、生み出だされたものである。而て、天皇は神の御直系として御中身みなかみであらせられるのであるから、われ／＼臣民はその分身わけみであると云はねばならない。換言すれば、天皇は全一體としての日本の中心・根幹であらせられ、われ／＼臣民はその分枝であると云はねばならない。従て、われ／＼臣民も、先天的に、むすびの道を身に具備してゐて、之を實踐する能力を有すると云はねばならない。

このことは必然的なことであるが、われ／＼臣民は之を深く強く自覺せねばならない。われ／＼がこの自覺——深き強きこの自覺をもてば、創造の原理としてのむすびの道を積極的に忠實に實踐する現實の根柢を有する様になる。而てこの實踐が臣道の實踐であることは云ふまでもない。然しこの自覺をもつことは、必ずしも容易であるとは云へない。又、この自覺をもつことが出來、從てむすびの積極的な忠實な實踐の現實的根柢をもつことが出來ても、之を綿々不斷に繼續して永遠の創造を行ふて行く努力は、一層容易な業わざではない。この意味に於て、むすびの原理の實踐は、苦行である——然し輝かしい結果を約束する苦行である。